

新しい監査システム導入後の成果報告

【目的】

調剤過誤は治療効果の損失と健康被害を引き起こす。そのため弊社では過誤発生ゼロを目指し平成 27 年から画像が記録できる監査システム(チェックがかかる項目:バーコード・画像および重量)を導入。2 年が経過し導入店が全 9 店舗中 7 店舗となったので、監査システムの有用性を検討するとともに未導入店との比較を実施。

【方法】

平成 29 年 6 月 1 日～6 月 30 日の期間で監査システム導入店舗 7 店において監査システムが発見したエラー(投薬前インシデントに該当)件数を集計し詳細を分類。平成 30 年 1 月 29 日～2 月 24 日の期間で全店舗において投薬前インシデントと投薬後インシデントの件数を集計し事例を調査。社内の薬剤師に監査システムの利用に関してアンケートを実施。

【結果】

監査システムが発見したエラー件数は全 99 件。うち、取り揃えミス:79 件、入力ミス:20 件。発生したエラーの内容を分類するとどちらのケースも規格違い日数違いが多く全体の 2/3 を占めた。監査システム導入店では投

薬後インシデントの発生が未導入店と比較して顕著に減少していた。また監査システム導入店では画像が残せるため患者からの問い合わせに対して理論在庫のみで調査するよりも迅速・正確に対応できていた。薬剤師へのアンケートでは監査システムに対して肯定的な意見が多く挙げられたが、修正可能と思われる課題も抽出できた。

【考察】

今回の調査で、監査システムの導入は有用であると判断できる。その一方で、監査システムを使用するにあたっていくつかの課題も発覚した。その一つは監査者の思い込みだと考えられる。今後それらを精査し入力・調剤時のインシデント対策を練り、周知徹底する事で過誤発生ゼロを目指す事ができると考えられる。